

清泉女子大学大学院
 過去問題

これまでに志願のあった科目について、最も新しい問題の情報を公開します。
 なお、公開されていない科目は志願のなかった科目です。
 また、一義的な解答例を示すことが難しい問題は、その公開を省略します。

課程			博士課程		
公開 科目	専門科目	文学	日本語圏	英語圏	スペイン語圏
		言語学	日本語圏	英語圏	スペイン語圏
		キリスト教思想	キリスト教思想		
		文化史	文化史		
公開年度			2006 年度入試		
期			春季		
出題意図			志望する研究分野に関する知識・理解を測る。		

解答例	問Ⅰ	重要と考えるポイントの一つ目は、スタートとなる言語資料の確かさである。文献によるのであれば、当該文献がどのような目的のためにどのような人によって作られたかというような基本的な情報がはっきりわかっていることが重要になる。コーパスなどを使う場合には、どのような資料に基づいてコーパスが構築されているかがわかっていることが重要になる。二つ目は、依拠した言語資料から研究に必要な情報を抽出するときの「方法」がはっきりしていて、第三者も同様の抽出が可能であること。三つ目は、抽出した情報に基づいて推測し、結論を得る、推測が合理的であること。関連する先行研究をふまえることによって、自身の推測の妥当性を確かめることも必要である。
	問Ⅱ	(1) 言文一致 (2) 「言」と「文」を一致させるには、たとえば「候文」の末尾の「候」を省くだけでもある程度の達成をみることができる。結局「達意の文章」をつくるには、特別な文字を使ったり、高尚な語句を使う必要はなく、自分が口頭で述べようとすることを自分が知っていることばで述べればよい。 (3) 福地桜痴の言説においては、「はなしことば」と「かきことば」が区別されているようではっきりと区別されていないように思われる。「言文一致」は「はなしことば」と「かきことば」との「距離」をなくすことによって、わかりやすい「かきことば」をつくるというところにポイントがあったと思われるが、論点が少し拡散的にみえる。

平成十八年度 春季

大学院博士課程 入学試験問題

《人文学専攻》

【専門科目…文学（日本語圏）】

次の〔一〕と〔二〕の二問に解答せよ。

〔一〕あなたが研究上重要と考える問題点を三つ挙げ、それらの問題がなぜ重要であるのか、修士論文等をふまえ、具体的に論述せよ。（100点）

〔二〕次の文章は、明治十四年五月二十三日および二十四日の「東京日日新聞」に掲載された福地桜痴の「文章論」の中の一節である。これを読んで、（1）（2）（3）に解答せよ。（50点）

（1）傍線部は具体的には何のことか。

（2）内容を要約せよ。

（3）その内容に対して、自身の考えを述べよ。

何ヲ以テ言語ト文章ト相同キニ至ラシムルヲ得ル乎ト云フニ、文章ヲツマルニ當テ、漢語ニテモ洋語ニテモ已ニ吾邦一般ニ通ズルノ言語トナリタルモノハ、敢テ斥ケザルモ妨ゲズ、又我邦語ナレバトテ上古又ハ中古ノ語ニテ今マハ一般ニ通用セラレザルモノアラバ、之ヲ省キテ用キザル様ニ心得テ筆ヲ採レバ、自然ニ言語ト同キ文章ヲ綴リ得ン。或ル古老ノ話ニ、汝デ誰ニデモ解リ易キ手紙ヲ認メント思ハバ、ハト云フ字ヲ省クベシト。其後チ試ニハノ字ヲ省キテ手紙ヲ認メタルニ、老人ノ言ノ如ク成程コレヲ婦人女子ニ讀聞カセテモ餘モ解ラヌハナキト知ラレタリ。是ノ如キ普通ノ言語ナラヌトキハ、ハノ一字ヲ省キテサヘ幾分カ文章ト言語ト相近キヲ得タレバ、常ニ口ト筆ト相同ジカラシメントサヘ心得ルナラバ、何トテ文章ノ效用ヲ廣クナラシメ得ザル事ノアルベキゾ。又夫レニ付キテ思出シタルヲアリ。舊幕ノコロ、或人ガ時ニ名高キ漢學ノ大儒ニシテ文章ノ大家タル佐藤一齋翁ニ謁シテ、我國ニ於テ近來ノ名文ニシテ文章ノ模範トナルベキモノヲ示サレタシト願ヒシニ、先生ノ語ラル、ニハ、近來ノ名文トテハ何モ聞キタルヲモナケレドモ、此頃奥州邊ノ龜ト云フ男ノ文章ヲ見タルカ、是レ等ゾ或ハ名文トモ稱シテ愧ヅルヲナカルベキ歟トテ、自ラ筆ヲ採リテ左ノ如キ文ヲ寫シテ示サレタルトゾ。

一金三兩也

馬代の事

右 三兩 まだ くさぬ だうするか くすと 云ふなら それでよい くさぬと 云ふなら おれが ゆく

龜の うでにハ ほねあ ある

、、、、日

龜印

、、、、どの

吾曹熟々此文ヲ觀ルニ、僅々二十ノ俗語ヲ以テ綴リ得タル簡單ナル文章ナレドモ、抑揚頓挫ノ妙ヲ極メ、波瀾起伏ノ致ヲ盡セリト謂フベシ。而シテ自ラ綱アリ目アリ、文理井然トシテ亂レザル所アレバ、是ヲ以テ之ヲ太史公ノ孔子世家贊ヤ、柳宗元ガ讀孟嘗君傳ノ文ニ比スルモ敢テ優劣ヲ見ザルガ如シ。宜ベナルカナ、一齋翁ガ之ヲ近來ノ名文ト稱シ、之ヲ文章ノ模範トセラレタルヲ。彼ノ龜ヤ、何ゾ曾テ文章ヲ學ビタルヲアランヤ、唯是レ龜ガ云ハント欲シタル意想ヲ其マ、龜ガ知ル所ノ文字ヲ以テ綴リ得タルノミ。然レバ是ヲ觀ルモ、亦タ以テ文章ハ達意ニアルトヲ知ルニ足ルベシ。又タ以テ、達意ノ文章ハ決シテ奇僻ノ文字ヲ用ヒ、高尚ノ語句ヲ用フルモノ、爲シ得ル所ニアラズシテ、己レガ口ニ述ベント欲スルモノヲ筆ニテ、己レガ知ル所ノ文字ヲ書キ下ダスニアルヲ知ルニ足ルベシ。

清泉女子大学大学院
 過去問題

これまでに志願のあった科目について、最も新しい問題の情報を公開します。
 なお、公開されていない科目は志願のなかった科目です。
 また、一義的な解答例を示すことが難しい問題は、その公開を省略します。

課程			博士課程		
公開 科目	専門科目	文学	日本語圏	英語圏	スペイン語圏
		言語学	日本語圏	英語圏	スペイン語圏
		キリスト教思想	キリスト教思想		
		文化史	文化史		
公開年度			2007 年度入試		
期			春季		
出題意図			志望する研究分野に関する知識・理解を測る。		
解答例		問Ⅰ	省略		
		問Ⅱ	たとえばシェイクスピア作品のアラビア語への翻訳を難しくする要因には、彼の詩劇に見られる駄洒落や言葉遊び、その他の言語的ユーモアを再現するというような難題が含まれる。同様に重要なのが、ヨーロッパ諸言語が共有する文化的遺産の存在であり、この点においても翻訳は一層難しくなる。なぜならシェイクスピアは、観客が古代ギリシャ・ローマやルネサンス期の文化・文学に通じていることを前提としているからである。たとえば多くの誤訳は、翻訳者がエリザベス朝時代の文化的背景に十分通じていないことに起因している。		

平成19年度 春季
大学院博士課程 入学試験問題
《人文学専攻》
【専門科目：文学（英語圏）】

次のⅠ，Ⅱの2問に解答せよ。

Ⅰ Choose two of the following three questions on English and American Literature and discuss on them in English. 【100点】

1. Geoffrey Chaucer and the Medieval Literature
2. William Shakespeare and English Renaissance Drama.
3. Puritanism in American Literature

II 次の英文の下線部を日本語に訳せ。

【50 点】

Translation from any language into another is difficult enough at the best of times. Translation from one West-European language to another may be problematic, but it is less so than translation from English into Arabic. European languages share common linguistic origins. They are thus more compatible in terms of language than Arabic and English. Complicating factors which arise in translating Shakespeare into Arabic, for instance, include the difficulties of capturing puns, wordplay, and similar linguistic humor of his poetic dramas. Equally important is the shared cultural heritage of European languages. In this respect, translation is further complicated since Shakespeare assumes that his audience is familiar with classical and Renaissance cultures and literatures. Many misinterpretations, for example, reflect the translator's unfamiliarity with the cultural background of the Elizabethan period. Finally, religious considerations are also important. In the Arab world, Islamic culture predominates. While there have always been significant numbers of Christian and Jewish Arabs, Islamic culture — in the use of language, for instance — has exerted a tremendous influence even on non-Muslims in the Arab world. Accordingly, translators usually eschew those references which might give offence to a Muslim audience.

Between Languages and Cultures

Edited by Anuradha Dingwaney and Carol Maier

これまでに志願のあった科目について、最も新しい問題の情報を公開します。
 なお、公開されていない科目は志願のなかった科目です。
 また、一義的な解答例を示すことが難しい問題は、その公開を省略します。

課程			博士課程		
公開 科目	専門科目	文学	日本語圏	英語圏	スペイン語圏
		言語学	日本語圏	英語圏	スペイン語圏
		キリスト教思想	キリスト教思想		
		文化史	文化史		
公開年度			2023 年度入試		
期			春季		
出題意図			志望する研究分野に関する知識・理解を測る。		
解答例		問Ⅰ	省略		
		問Ⅱ	2. 98年の世代 19世紀に入り、ラテンアメリカで多くの国が独立し、宗主国としての「スペイン帝国」の没落は明らかになっていたが、1898年の米西戦争の敗北がその事実を決定づけた。スペインは最後の砦であった植民地キューバや、プエルトリコ、フィリピン、グアムを失ったのである。国内に失望感と悲観主義が蔓延するなか、これをスペインの後進性の結果であると考え、祖国再生を目指す文学者、思想家たちが現れた。ウナムーノ、ピオ・バローハ、アソリン、マエストゥ、アントニオ・マチャード、バリェ・イン克蘭らである。彼らを98年の世代と呼ぶ。祖国に対する危機感と問題意識を共有し、詩、小説、戯曲、批評、エッセイなどさまざまな表現形式を通して「スペインとは何か」を突き詰めた。カスティーリャの荒野にスペインの原点を求め、無名の人々の日常的な営みやその背景にある風土を再評価したり、社会が抱える問題を追及するなどして、祖国の再生への道を探ったことが知られる。		

解答例	問Ⅱ	5. Jorge Luis Borges Poeta, ensayista y escritor argentino. Nació en 1899 en Buenos Aires y murió en 1986 en Ginebra, Suiza. Su abuela paterna era inglesa, y creció en un ambiente bilingüe, utilizando tanto el español como el inglés en el hogar. Tras la Primera Guerra Mundial recorrió diversos países de Europa y, en España, participó en el movimiento de vanguardia conocido como el «ultraísmo». A su regreso a Argentina publicó su primer libro de poemas, Fervor de Buenos Aires (1923). A partir de la década de 1930 comenzó a escribir cuentos y colaboró en la revista Sur, fundada por Victoria Ocampo. En 1944 publicó Ficciones y en 1949 El Aleph, que son ambos una colección de cuentos donde exploró los misterios de la eternidad y el destino, y que constituyen las obras más importantes de su carrera literaria. Fue director de la Biblioteca Nacional y profesor de literatura inglesa en la Universidad de Buenos Aires, a pesar de sufrir la pérdida de la vista.
	問Ⅲ	吟遊詩人が広場で物語を生きた声で語る「言葉の時代」すなわち中世においても、少数の人々が個人蔵書を持ち、黙読する「本の時代」すなわちルネッサンスや黄金世紀においても、文学の目的はおもに、その時代の社会に相応しいと考えられている価値を学ばせるというものであった。書物はイデオロギーを均一化させる社会的要因として機能していた。書物は行動の手本を示していたため、道徳的価値を持っていた。 一般的に19世紀までの文学は、宗教的・社会的な規範や道徳に適合するよう読者を教育する目的があった。 ロマン主義はスペイン文化の中を平行して流れており、支配的な道徳を疑問視する立場が現れることを予言していた。やがてパラダイムの変革が起こり、「文学の時代」が始まった。作品の中に存在する道徳は創造プロセスにおいてもはや機能せず、不必要だと考えられるようになった。1800年以降、革新的なもの、作者個人の寄与、作者の視点や独自の感性が評価されるようになった。

**2023(令和 5)年度 春季
大学院博士課程 入学試験問題
《人文学専攻》
【専門科目:文学(スペイン語圏)】**

I. 文学作品とその社会的背景について、あなたの研究テーマに即して論述しなさい。[50 点]

II. 次に挙げた語句や名前のうち 2 つを選び、1 つは日本語で、もう 1 つはスペイン語で、それぞれ 10 行程度で説明しなさい。[50 点]

1. Neoclasicismo en España
2. La generación del 98
3. Surrealismo en América Latina
4. Luis de Góngora
5. Jorge Luis Borges

III. 次の文章を読んで、要旨を 400 字程度の日本語で述べなさい。[50 点]

Tanto en la Edad de la Palabra, la edad media, cuando los trovadores y juglares contaban historias de viva voz en las plazas públicas o mercados, o los clérigos, al modo del monje Gonzalo de Berceo festejaban a la Virgen, como en la Edad del Libro, el renacimiento y el siglo de oro, cuando un pequeño número de personas sabía leer en silencio y poseía una biblioteca personal, el propósito de la literatura con la que entraban en contacto era principalmente el de aprender, o dicho en puridad, de acomodar sus valores a los considerados apropiados por la sociedad de su tiempo. Los libros sincronizaban las creencias de los lectores, actuaban de factor social de nivelación ideológica. Los valiosos volúmenes, la mayoría de contenido religioso (misales, libros de rezos, vidas de santo, etc.), e incluso los que con el tiempo llegaríamos a denominar literarios, poseían un valor moral, porque mostraban por medio del ejemplo cómo debía de ser la conducta de los hombres. El renombre y aprecio posterior dependía del buen logro de su propósito didáctico.

En general, la literatura hasta el siglo XIX tuvo el propósito de adoctrinar a los

lectores, para que se acomodaran a los preceptos religiosos y sociales, a la moral de la época, codificada en una ética sobre la que ellos nada tenían que añadir — la invención y las novedades nadaron contra corriente a lo largo de la historia. [...]

El romanticismo fluía paralelamente por las venas culturales españolas, auspiciando el cuestionamiento de las premisas morales reinantes. Con el tiempo conseguirá cambiar el paradigma, ofreciendo una alternativa al moralismo e inaugurando la Edad de la Literatura, cuando la presencia de la moral en la obra pasó a considerarse inoperante en el proceso de creación e innecesaria para su interpretación. Se valorará a partir de 1800 lo innovador, la aportación personal del autor, su perspectiva y sensibilidad propia.

【出典】 Germán Gullón, *Una venus mutilada. La crítica literaria en la España actual*, Madrid: Biblioteca Nueva, 2008 (一部改変)

注) adoctrinar 教育する

codificar 体系化する

auspiciar 予言する

これまでに志願のあった科目について、最も新しい問題の情報を公開します。
 なお、公開されていない科目は志願のなかった科目です。
 また、一義的な解答例を示すことが難しい問題は、その公開を省略します。

課程			博士課程		
公開 科目	専門科目	文学	日本語圏	英語圏	スペイン語圏
		言語学	日本語圏	英語圏	スペイン語圏
		キリスト教思想	キリスト教思想		
		文化史	文化史		
公開年度			2024 年度入試		
期			春季		
出題意図			志望する研究分野に関する知識・理解を測る。		
解答例	問Ⅰ	1 片仮名・平仮名 片仮名は漢字の部分からつくられ、当初は、漢文訓読文において使われていた。その時期には、片仮名と平仮名とで同じような字形が使われることもあった。片仮名は漢文訓読と密接に結びついて成立したので、漢字との親和性がたかい文字体系といえる。平仮名は漢字全体をもとにしてつくられているが、漢語の使用が少ない和文において使われた。平安時代には、平仮名を美しく書くことが価値をもつようになった。 2 漢字列 漢字が並べられたものを「漢字列」と呼ぶ。日本語の文字化においては、和語も漢語も同一の漢字列によって文字化することが可能であり、振仮名が施されていないければ、当該漢字列がいかなる語を文字化したものであるかがわからないことがある。そのような状態を指す学術用語として「漢字列」は有効である。 3 表記体 日本語をあらわすために使うことができる、漢字、仮名（平仮名・片仮名）によってどのように文字化が行なわれているかをあらわす概念が「表記体」である。日本語の表記体は、「表意専用」「表音専用」「表意表音併用」の三つに大きくわけることができる。			

解答例	問Ⅰ	4 振仮名 漢字がいかなる語を文字化しているかを、「読み手」に明示するために漢字列の右または左（あるいは両方）に仮名で添えられているものが振仮名である。「書き手」側からいえば、振仮名を文字化したものが漢字列ということになる。振仮名を注釈と考えれば、漢字列には潜在的に振仮名が施されていると考えることもできる。 5 辞書体資料 何らかの編集が行なわれている資料を「辞書体資料」と呼ぶ。「辞書体資料」の排他的対概念が「非辞書体資料」で、編集されていない資料を指す。
	問Ⅱ	『萬葉集』においては、和語「サト」の文字化に、単漢字「郷」「里」が使われている。和訓という観点でいえば、単漢字「郷」「里」いずれもが和訓「サト」をもっているという状態といえる。これは従来、「異字同訓」と呼ばれる現象であるが、和語「サト」が複数の漢字と結びつきを形成していることがわかる。一方、単漢字「放」は和語「サク」「ハナツ」いずれをも文字化しており、この場合は「一字多訓」ということになる。このように、「語」とそれを文字化する文字である「漢字」とをめぐって、複数の「語」と複数の「漢字」が結びつきを形成しているのが日本語における「連合関係」といえる。
	問Ⅲ	もっとも注目すべきは『言海』が「日本普通語ノ辞書」と言挙げされている点である。「普通語」がどのような語であるかということについては、およそ広通している語と考えることができる。この文章では、「普通語」と「地名人名等ノ固有名称」「学術専門ノ語」とが対置され、区別されている。人名や植物名を多く含んだ、江戸時代までの『節用集』などとは、見出しの選定において、はっきりと異なっており、『言海』が「近代的な国語辞書」の嚆矢と呼ばれる理由といってよい。それは「部門類別ノ方ニ拠ラザルヲ法トスベシ」にもあらわれていて、「意味分類+いろは順」とは異なる、発音による見出し配列が意識的に選択されている点が評価できる。

二〇二四（令和六）年度 春季

大学院博士課程 入学試験問題

《人文学専攻》

【専門科目：言語学（日本語圏）】

次の□・□・□に解答せよ。

□ 1 次の1～5の中から三つを選び、説明せよ（解答欄に、各自選んだ三項目の番号を記入して答案を書くこと）。〔45点〕

- 1 片仮名・平仮名
- 2 漢字列
- 3 表記体
- 4 振仮名
- 5 辞書体資料

□ 2 日本語において、「連合関係（rapport associatif）」がどのように形成されていたかについて、できるだけ具体例をあげながら述べよ。〔55点〕

□ 3 次に掲げるのは、『言海』の「本書編纂ノ大意」の（一）である。どのようなことが述べられているか、整理しながら、それについての見解を述べよ。〔50点〕

此書ハ、日本普通語ノ辞書ナリ。凡ソ、普通辞書ノ体例ハ、其国普通ノ単語、若シクハ、熟語（二三語合シテ、別ニ一義ヲ成スモノ）ヲ挙ゲテ、地名人名等ノ固有名称、或ハ、高尚ナル學術専門ノ語ノ如キヲバ収メズ、又、語字ノ排列モ、其字母、又ハ、形体ノ順序、種類ニ従ヒテ次第シテ、部門類別ノ方ニ拠ラザルヲ法トスベシ。其固有名称、又ハ、専門語等ハ、別ニ自ラ其辞書アルベク、又、部門ニ類別スルハ、類書ノ体タルベシ。此書編纂ノ方法、一二普通辞書ノ体例ニ拠レリ。

清泉女子大学大学院 過去問題

これまでに志願のあった科目について、最も新しい問題の情報を公開します。
なお、公開されていない科目は志願のなかった科目です。
また、一義的な解答例を示すことが難しい問題は、その公開を省略します。

課程			博士課程		
公開 科目	専門科目	文学	日本語圏	英語圏	スペイン語圏
		言語学	日本語圏	英語圏	スペイン語圏
		キリスト教思想	キリスト教思想		
		文化史	文化史		
公開年度			2023 年度入試		
期			春季		
出題意図			志望する研究分野に関する知識・理解を測る。		

解答例

問Ⅰ

教師が教科や学習に対して示す熱意は、効果的指導の重要な要因であり、生徒との前向きな関係を支え、学習意欲と達成度を高める。生徒が「やる気を出させてくれる教師」と感じるのは、学習を自分事としてとらえさせ、秩序ある教室環境を保ち、高い基準を設定し、適度に難しい課題を与え、その間強化や励ましを与える教師である。

熱意ある教師の影響は授業後も続き、生徒が能力以上に努力する姿勢を育てる一方で、力量の低い教師は教科への関心を失わせることさえあると研究で示されている。良い教師は、静かに傍観しがちな生徒を認めながらも、彼らに学習参加を促し続ける。

さらに教師は動機の個人差についても理解し、生徒の内発的動機を支えながら、必要な場合には外発的動機を与える。動機づけとは、生徒の学習への受容度を高めそれを楽しめるよう支援し、学習自体の重要性を理解させる営みでもある。特に完全習得学習法を用いて教えると、生徒は学習態度の改善に加え、学業上の自己概念やその教科への関心とさらなる学びへの欲求が高まる。加えて、高次的認知プロセスを重視し学習方略を習得させれば、刺激的で常に新しく遊び心のある学習環境が生まれる。

複数の研究によると、教師の側の動機や熱意は、生徒の動機づけや達成度と関連がある。また教師の熱意は年長の学生により大きな影響があるとする知見がある一方、初等段階でも有能な教師は仕事への熱意を示すものとされる。

問Ⅱ

省略

2023 (令和 5) 年度 春季
大学院博士課程 入学試験問題
《人文学専攻》
【専門科目：言語学（英語圏）】

次のⅠ、Ⅱの２問に解答せよ。

Ⅰ 次の英文を読んで要旨を 600 字程度の日本語で書け。 [50 点]

The teachers' enthusiasm for teaching, learning, and their subject matter has been shown to be an important part of effective teaching, both in supporting positive relationships with students and in encouraging student achievement. Students say that teachers can effectively motivate them by encouraging them to be responsible for their own learning, maintaining an organized classroom environment, setting high standards, assigning appropriate challenges, and providing reinforcement and encouragement during tasks. These students see effective teachers as motivational leaders.

Research indicates that effective teachers have residual positive effects on their students' willingness to work to their potential and beyond. Consequently, less effective teachers may actually extinguish students' interest in the subject. Good teachers realize and address the fact that some students prefer to sit quietly on the sideline; however, they do not stop involving them.

By finding a way to motivate a student to learn, a teacher contributes to a student's evolving attitude toward a particular subject or activity. In other words, the teacher can bring out the best in that student. An effective teacher recognizes that students vary in their motivation levels. An effective teacher knows how to support intrinsically motivated students and seeks ways to provide extrinsic motivation to students who need it. Motivating students consists of making students receptive to and excited about learning, as well as making them aware of

the importance and value of learning itself. By establishing positive attitudes and perceptions about learning, the effective teacher makes the learner feel comfortable in the classroom. As a particular example of establishing positive attitudes, teachers who provide mastery learning techniques for their students improve the attitudes of their students. They also increase academic self-concept, interest in the subject area, and the desire to learn more about the subject. Emphasizing higher-order mental processes along with mastering learning strategies tends to create a learning environment that is exciting and constantly new and playful.

Researchers have investigated the influence of teacher enthusiasm on student motivation and learning, with the following results and conclusions:

- High levels of motivation in teachers relate to high levels of achievement in students (Rowan et al., 1997).

- Teachers' enthusiasm for learning and for their subject matter has been shown to be an important factor in student motivation, which is closely linked to student achievement (Covino & Iwanicki, 1996; Monk & King, 1994).

- Some studies indicate that the enthusiasm factor is more significant with older students than younger ones, but effective primary teachers also demonstrate enthusiasm for their work as part of their overall effectiveness (Bain & Jacobs, 1990).

Qualities of Effective Teachers

by James H. Stronge

Ⅱ 次の A、B、C の中から 1 つを選び、専攻領域の言語で解答せよ。(選択)
[100 点]

A (言語教育関係)

Write an essay in English on one of the following statements, making a special reference to your prospective research in the doctoral program.

- (1) Objectives of a method, whether defined primarily in terms of product or process, are attained through the instructional process, through the organized and directed interaction of teachers, learners, and materials in the classroom. Differences among methods at the level of approach manifest themselves in the choice of different kinds of learning and teaching activities in the classroom.
- (2) The teacher has two main roles: the first role is to facilitate the communication process between all participants in the classroom, and the various activities and texts. The second role is to act as an independent participant within the learning-teaching group. The latter role is closely related to the objectives of the first role and arises from it. These roles imply a second role of the teacher; first, as an organizer of resources and as a resource himself or herself, second as a guide within the classroom procedures and activities.
- (3) Cooperative learning is group learning activity organized so that learning is dependent on the socially structured exchange of information between learners in groups and in which each learner is held accountable for his or her own learning and is motivated to increase the learning of others.

B (言語学関係)

Discuss the relation between linguistic forms and functions, in connection with your own research.

C (翻訳関係)

It is often said that the aim of translation is to provide semantic equivalence between source and target language. Discuss what makes translation different from other kinds of linguistic activity, such as adapting, précis writing, and abstracting.

清泉女子大学大学院
 過去問題

これまでに志願のあった科目について、最も新しい問題の情報を公開します。
 なお、公開されていない科目は志願のなかった科目です。
 また、一義的な解答例を示すことが難しい問題は、その公開を省略します。

課程			博士課程		
公開 科目	専門科目	文学	日本語圏	英語圏	スペイン語圏
		言語学	日本語圏	英語圏	スペイン語圏
		キリスト教思想	キリスト教思想		
		文化史	文化史		
公開年度			2007 年度入試		
期			春季		
出題意図			志望する研究分野に関する知識・理解を測る。		
解答例		問Ⅰ	1. catáfora La catáfora es la relación de identidad que se establece normalmente entre el referente de un pronombre y el de un sintagma nominal o una oración que aparecen posteriormente en el discurso. Un simple ejemplos es Le dije a Juan que viniera, donde el pronombre personal le se refiere al sustantivo Juan que se sitúa posteriormente al pronombre. La catáfora también puede producirse entre dos sintagmas nominales que no sean pronombres. Un ejemplo es Un problema grave tenemos: la falta de fondos, en el que se argumenta la identidad entre el primer sintagma nominal un problema grave y el segundo, más concreto, la falta de fondos.		

解答例	問 I	4. hiato En el contexto de la fonética general, el hiato se refiere a una serie de dos o más vocales heterosilábicas, cada una de las cuales pertenece a una sílaba separada. En español, una serie de dos vocales que contienen una vocal alta /i, u/ forma un diptongo (ue, ai, etc.) y se sitúan dentro de una misma sílaba, por lo que no constituyen hiato. Por ejemplo, las palabras puede y aire se silabea como pue-de y ai-re respectivamente y no contienen hiato sino un diptongo. Por el contrario, una secuencia de dos vocales que no sean vocales altas (ea, ao, etc.) o que contiene una vocal alta que lleva tilde, sí forman un hiato. por lo que tienen un límite silábico entre las dos vocales. Por ejemplo, las palabras teatro y país en sílabas se silabea como te-a-tro y pa-ís, respectivamente. La lengua española tiene una tendencia a evitar hiatos. El que la forma del presente de indicativo de la tercera persona del singular del verbo oír sea oye en lugar de *oe se debe a esta tendencia. 6. prefijo El prefijo es un afijo derivativo que se antepone a la base de derivación (p. ej. in- en informal, sub- en submarino), y, por lo tanto, es un morfema ligado. Siguientes son unos prefijos más comunes con su significado: re- (repetición) en reabrir; in- (negación) en inútil; pre- (anterioridad) en preparar; anti- (oposición) en antivirus, super- (superioridad) en supermercado; sub- (debajo) en subterráneo, inter- (entre) en internacional. También merece notar que los prefijos no cambian la categoría de la base, aunque modifican su significado. Así, posible e imposible son ambos adjetivos, ver y prever son verbos, etc. 8. leísmo El leísmo es un fenómeno del español en el que se usa le en lugar de lo o la como pronombre de objeto directo. Es especialmente frecuente en España, sobre todo cuando el referente es masculino y humano. La Real Academia acepta como correcto el uso de le para el objeto directo masculino singular animado. He aquí algunos ejemplos simples: Vi a Juan → Le vi. (leísmo aceptado por la RAE); Busco a mi hermano → Le busco. (leísmo aceptado); Vi el coche → *Le vi. (leísmo no aceptado por la RAE); Llamé a María → *Le llamé. (leísmo no aceptado) Hay que tener en cuenta que el leísmo refleja variación dialectal y preferencias de cortesía en algunas zonas.
------------	------------	---

解答例	問Ⅱ	19世紀を通して、イデオロギーの対立、軍部による政治への頻繁な暴力的介入、社会的不均衡、そして地域ナショナリズムが、他の要素とともに、スペイン人の生活を悪化させた。彼らは、矛盾が広まる状況に沈み込んだまま20世紀に入っていくことになるだろう。 スペインの人口は大きく増加した。しかし、不十分な工業設備と旧式の土地所有制度が経済的、社会的発展を妨げていた。その結果、人口の大部分はオフィシャルな国家に背を向けて暮らし、この世紀に社会的に獲得されたものを受け取るのに長い時間がかかることになった。 啓蒙主義者の精神を受け継ぎ、啓蒙主義者と同じように経済問題と教育問題に関心を寄せ、自由主義と進歩主義を信奉する少数のブルジョワジーは、断続的に権力を手に入れ、10もの憲法を発布したが、どれひとつとして国民の大多数をまとめることも、社会の構造的悪を解決することもできなかった。
------------	-----------	---

平成19年度 春季

大学院博士課程 入学試験問題

《人文学専攻》

【専門科目:言語学(スペイン語圏)】

次のⅠ，Ⅱの2問に解答せよ。

I Elija cuatro de los siguientes diez temas, y explíquelos en español. Incluya, siempre que sea posible, ejemplos del español. [100 点]

1. catáfora
2. negación expletiva
3. aspiración
4. hiato
5. arbitrariedad de los signos lingüísticos
6. prefijo
7. metáfora
8. leísmo
9. coordinación
10. ambigüedad

II 次の文章は、*Curso de civilización española* と題された本の “Independencia de las colonias de Hispanoamérica” という章の冒頭である(一部改変)。全文を和訳せよ。〔50 点〕

El enfrentamiento ideológico, la frecuente intervención violenta de los militares en la política, los desequilibrios sociales y los nacionalismos regionales degradaron a lo largo del siglo XIX, entre otros factores, la convivencia de los españoles, que accederán al siglo XX inmersos en un ambiente de conflictividad generalizada.

La población española aumentó considerablemente. El deficiente equipamiento industrial y los arcaicos sistemas de posesión de la tierra impedían, sin embargo, el desarrollo económico y social. La gran masa de la población vivía, en consecuencia, de espaldas al país oficial, y tardaría mucho tiempo en disfrutar de las conquistas sociales del siglo.

Una minoría de burgueses, liberales y progresistas, herederos del espíritu de los ilustrados y preocupados como ellos por los problemas económicos y educativos, se hizo intermitentemente con el poder y promulgó hasta diez Constituciones, sin que ninguna de ellas consiguiera unir a la mayoría del pueblo ni resolver los males estructurales de la sociedad.

[Sebastián Quesada, *Curso de civilización española* (adaptado)]

清泉女子大学大学院 過去問題

これまでに志願のあった科目について、最も新しい問題の情報を公開します。
なお、公開されていない科目は志願のなかった科目です。
また、一義的な解答例を示すことが難しい問題は、その公開を省略します。

課程			博士課程		
公開 科目	専門科目	文学	日本語圏	英語圏	スペイン語圏
		言語学	日本語圏	英語圏	スペイン語圏
		キリスト教思想	キリスト教思想		
		文化史	文化史		
公開年度			2024 年度入試		
期			春季		
出題意図			志望する研究分野に関する知識・理解を測る。		

解答例	問Ⅰ	省略
	問Ⅱ	戦争における非戦闘員の保護という概念は、現代の正戦論において中心的な位置を占めているにもかかわらず、最も初期かつ影響力の大きい正戦論者の一人である聖アウグスティヌスの著作には見られない。これは注目すべき点である。第4章で見たように、戦争は処罰の一形態として正当化しようとアウグスティヌスは主張した。しかし、戦争は罪ある者にも罪のない者にも等しく害を及ぼすため、処罰の一形態として戦争を正当化することは困難であることを、私たちは指摘した。アウグスティヌスはこの問題を、侵略国家のすべての構成員は有罪であると論じることによって克服しようとした。したがって、アウグスティヌスの説明は次のような考えをその一部として含んでいる。すなわち、国家の構成員は一つの身体なのであり、彼らは互いの不正行為を共有し合っているのだ、とみなすのが適切であるという考えである。もしフランス軍がスペインに侵攻したならば、フランス国民はすべて有罪であり、全員が処罰されてよいことになる。このように、アウグスティヌスの正戦論は、戦闘員と非戦闘員との間に道徳的観点からのいかなる区別も認めていないのである。 マキーオウ（McKeogh）は、侵略国家の構成員一人ひとりに罪が帰属するというこの見方が、次のことを示すうえで不可欠であったと示唆している。すなわち、人々を取り扱う際のキリスト教的な理想——各人がその人にふさわしいものを受けるという原則——が、戦争における非戦闘員の死を引き起こすことと両立するということである。アウグスティヌスの時代、戦争時の戦術には、たとえば町や都市の包囲戦がしばしば含まれており、それが戦闘員とともに非戦闘員の死をもたらすことは予測可能であった。このような死を引き起こすことは、一見すると無辜の者を殺すことを禁じるキリスト教の教えと相容れないように思われる。しかし、各市民個人を有罪とみなし、したがって処罰に値すると考えることによって、アウグスティヌスは、これらの死を引き起こすことが道徳的に正当だとする理由を説明することができたのである。

2024 (令和 6) 年度 春季
大学院博士課程 入学試験問題
《人文学専攻》
【専門科目：キリスト教思想】
(英語選択者用)

I キリスト教思想の特質を自己の研究テーマと関係付けて論じなさい。

【100 点】

II 下の英文をすべて日本語に翻訳しなさい。【50 点】

The notion of non-combatant immunity in war, although central to contemporary just war theory, is notably absent in the writing of St Augustine, one of the earliest and most influential just war theorists. As we saw in Chapter 4, Augustine argued that war could be justified as an act of punishment. But we noted that it is hard to justify using war as a form of punishment because war inflicts harms upon the guilty and innocent alike. Augustine tried to overcome this problem by arguing that all members of aggressing states are guilty. Part of Augustine's account, then, is that we can properly view the members of a state as one body, sharing in each other's wrongdoing. If the French army invades Spain, all French citizens are guilty and all may be punished. Thus Augustine's account of the just war does not recognise any moral distinction between combatants and non-combatants.

McKeogh suggests that this view of guilt as attaching to each and every member of an aggressing state was essential for showing that the Christian ideal of treating people as individuals - with each getting what he or she deserved - was compatible with causing non-combatant deaths in war. Wartime tactics in Augustine's time often included, for example, sieges of towns or cities, which would predictably result in the deaths of non-combatants along with combatants. Causing these deaths seems *prima facie* incompatible with Christian teachings on not killing the innocent. By deeming each citizen individually guilty, and thus liable to punishment, Augustine could explain why causing these deaths was morally justified.

(Helen Frowe, *The Ethics of War and Peace*, New York, 2023, p.165.)

清泉女子大学大学院 過去問題

これまでに志願のあった科目について、最も新しい問題の情報を公開します。
なお、公開されていない科目は志願のなかった科目です。
また、一義的な解答例を示すことが難しい問題は、その公開を省略します。

課程			博士課程		
公開 科目	専門科目	文学	日本語圏	英語圏	スペイン語圏
		言語学	日本語圏	英語圏	スペイン語圏
		キリスト教思想	キリスト教思想		
		文化史	文化史		
公開年度			2024 年度入試		
期			春季		
出題意図			志望する研究分野に関する知識・理解を測る。		

解答例	問Ⅰ	省略
	問Ⅱ	戦争における非戦闘員の保護という概念は、現代の正戦論において中心的な位置を占めているにもかかわらず、最も初期かつ影響力の大きい正戦論者の一人である聖アウグスティヌスの著作には見られない。これは注目すべき点である。第4章で見たように、戦争は処罰の一形態として正当化しようとアウグスティヌスは主張した。しかし、戦争は罪ある者にも罪のない者にも等しく害を及ぼすため、処罰の一形態として戦争を正当化することは困難であることを、私たちは指摘した。アウグスティヌスはこの問題を、侵略国家のすべての構成員は有罪であると論じることによって克服しようとした。したがって、アウグスティヌスの説明は次のような考えをその一部として含んでいる。すなわち、国家の構成員は一つの身体なのであり、彼らは互いの不正行為を共有し合っているのだ、とみなすのが適切であるという考えである。もしフランス軍がスペインに侵攻したならば、フランス国民はすべて有罪であり、全員が処罰されてよいことになる。このように、アウグスティヌスの正戦論は、戦闘員と非戦闘員との間に道徳的観点からのいかなる区別も認めていないのである。 マキーオウ（McKeogh）は、侵略国家の構成員一人ひとりに罪が帰属するというこの見方が、次のことを示すうえで不可欠であったと示唆している。すなわち、人々を取り扱う際のキリスト教的な理想——各人がその人にふさわしいものを受けるという原則——が、戦争における非戦闘員の死を引き起こすことと両立するということである。アウグスティヌスの時代、戦争時の戦術には、たとえば町や都市の包囲戦がしばしば含まれており、それが戦闘員とともに非戦闘員の死をもたらすことは予測可能であった。このような死を引き起こすことは、一見すると無辜の者を殺すことを禁じるキリスト教の教えと相容れないように思われる。しかし、各市民個人を有罪とみなし、したがって処罰に値すると考えることによって、アウグスティヌスは、これらの死を引き起こすことが道徳的に正当だとする理由を説明することができたのである。

2024 (令和 6) 年度 春季
大学院博士課程 入学試験問題
《人文学専攻》
【専門科目：文化史】
(英語選択者用)

I 国家による統治政策と宗教のかかわりについて、自己の研究テーマに即して論述せよ。【100 点】

II 下の英文をすべて日本語に翻訳しなさい。【50 点】

The notion of non-combatant immunity in war, although central to contemporary just war theory, is notably absent in the writing of St Augustine, one of the earliest and most influential just war theorists. As we saw in Chapter 4, Augustine argued that war could be justified as an act of punishment. But we noted that it is hard to justify using war as a form of punishment because war inflicts harms upon the guilty and innocent alike. Augustine tried to overcome this problem by arguing that all members of aggressing states are guilty. Part of Augustine's account, then, is that we can properly view the members of a state as one body, sharing in each other's wrongdoing. If the French army invades Spain, all French citizens are guilty and all may be punished. Thus Augustine's account of the just war does not recognise any moral distinction between combatants and non-combatants.

McKeogh suggests that this view of guilt as attaching to each and every member of an aggressing state was essential for showing that the Christian ideal of treating people as individuals - with each getting what he or she deserved - was compatible with causing non-combatant deaths in war. Wartime tactics in Augustine's time often included, for example, sieges of towns or cities, which would predictably result in the deaths of non-combatants along with combatants. Causing these deaths seems *prima facie* incompatible with Christian teachings on not killing the innocent. By deeming each citizen individually guilty, and thus liable to punishment, Augustine could explain why causing these deaths was morally justified.

(Helen Frowe, *The Ethics of War and Peace*, New York, 2023, p.165.)